

県外派遣報告書	
1 大会名	第75回 全九州高等学校バスケットボール競技大会
2 派遣期間	令和4年 6月17日(金)～19日(日)
3 派遣者	原田拓朗 隈元ゆみこ 川井剛 山中萌衣 前田隼大
4 担当ゲーム	原田：女子1回戦 CC/男子決勝 U1 隈元：女子2回戦 CC 川井：男子1回戦 CC/男子2回戦 U1/男子順位決定戦 U2 山中：女子1回戦 CC/女子1回戦 CC/女子決勝 U2 前田：男子1回戦 CC/男子1回戦 U1/男子準決勝 U2
5 内容	<p>&lt;隈元氏 報告&gt;</p> <p>女子2回戦 福大若葉(福岡2位) 対 西原(沖縄1位) CC：隈元 U1：川島司(宮崎) U2：久保田亘喜(宮崎) 【ポストゲームカンファレンス：IR 井元誠氏(熊本)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1Qで、Lローテーション中に、若葉のカッティングに対する西原のバンプへの call。その後すぐの若葉ドライブに対する Hit。本来、Primary Lからの callが欲しいところをしっかりと絵が出来上がってから T から callがあったことで、テンポセットにつながった。</li> <li>・Primary Cでのドライブからのゴール下ジャンパーを T から callされたケースで、Cとしてどうプレイを捉えていたか。やはり、全体像として Defが覆いかぶさっているように映ったので、単純に C から callすべきであったと感じた。</li> </ul> <p>(前田氏 報告)</p> <p>男子1回戦 佐賀北 vs 福大大濠 CC:前田 U1:長田(宮崎) U2:泉(宮崎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゲームカンファレンスで話をしたテンポセットの部分は発揮できたが、触れ続ける手を気にはしていたもののコールで示せず、4Qに笛が入ったものをクルーとして早くコールで示したかった。</li> <li>・トランジションに素早く反応でき、プレーを長く確認しプライマリのレフリーがコールできた。</li> <li>・TO、ベンチ管理の部分をもっと丁寧にスムーズに行いたかった。→協力のコミュニケーション</li> </ul> <p>男子1回戦 佐賀東 vs 未来工科 CC:小川 U1:前田 U2:森本 IR:渡久地氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イリーガルなコンタクトを吹き続けるメンタルと声かけでの抑制</li> <li>・Lローテーション中にCサイドのプレーをTへすぐに上がり判定できた</li> <li>・プライマリでの判定</li> <li>・明らかなトラベリングはしっかりと取り上げる</li> </ul>

・ああすればよかった、こうすればよかったではなく、次に繋がるものと繋げるものを整理しできたことに対しても目を向ける

男子準決勝 柳ヶ浦 vs 福大大濠

CC:井元 U1:金岩 U2:前田 IR:松本氏

・留学生、留学生に対するコンタクトへのゲームコントロール 探すのではなく、フローを感じ取る

・クロックの修正 フリースローが入ったから修正できたものをいつ確認すべきだったか

マジックタイムの確認と TO 管理

・OOB時のクロック修正 答えを持っておく

・デッドボール時の意識

・プレーを予測し、無理してローテーションせず長くプレーを見れた

《川井氏 報告》

男子1回戦 豊見城 vs 柳ヶ浦

CC:川井 U1:橋元(宮崎) U2:上水(宮崎)

男子2回戦 小林 vs 柳ヶ浦

CC:福岡(長崎) U1:川井 U2:西崎(福岡)

男子シード決定戦 延岡学園 vs 柳ヶ浦

CC:山口(福岡) U1:松田(沖縄) U2:川井

3試合担当。CC、U1、U2とそれぞれ割り当てをいただいた中で、今後の課題として。以下の点が挙げられる。

・CCとして、クルーの力を十分に発揮させ、ゲームが良い方向に進むようにリードしていく。そのために、ゲーム全体を把握し、いろいろなところにアンテナをはって、情報を集める必要がある。その中で、何かが起こった際に決断するメンタルと、プレゼンをする方法を身につけておく必要がある。

・ファウルやバイオレーションの判定をするだけでなく、その後の処置や見せ方なども含めて、ゲームをコントロールする。判定だけが仕事ではない。

・何かが起こった際に慌てた様子や自信のない様子が感じられるので、工夫と改善を。日頃からの習慣。プレゼンが弱くなる場面がある。

・失敗や間違いは誰にでもあるので、そういうのを気にしすぎずに、シンプルなコーリングを積み重ねること。考えすぎないこと。

・アクティブなのかそうでないのか、感じ取りながらゲームを進める。

・EOQやEOGの際にファウルが先だったかどうか。先だったなら時間は残る。時計を握っているレフェリーの場合は、何秒残すのか？時間が残ることを、どうプレゼンするのか。ファウルを判定するレフェリーの場合は、ブザーとファウル、どちらが先だったのか？ファウルが先であるなら、スムーズにレポートへ。1試合で必ず最低でも4回起こる場面で、注目が集まる場面でもあるので、力強く示し、ゲームをリードする。

《山中氏 報告》

女子1回戦 長崎西対慶誠

CC 山中、U1 田上（宮崎県）、U2 畠中（宮崎県）

- ・慶誠のビッグマンに対する守り方の整理。ビッグマンをマークしている選手よりもヘルプカバーにきた選手がシリンダーをおかしていないかなど、前半で笛を入れるべきものがあったのではないか。
- ・エルボー付近のジャンプシュートに対して、アングルがよく取れているレフリーがコールすることができたのが何本かあった。
- ・クロックの訂正が必要な時に、誰かが確認できていたので正しい時間に戻してスタートすることができた。

女子1回戦 佐賀北対熊本商業

CC 山中、U1 矢野（宮崎県）、U2 興梠（宮崎県）

- ・熊本商業のスクリーンに対して、1Qでオフェンスファールをコールしたが、同じプレーが繰り返されていたので、熊本商業の選手やベンチにコミュニケーションをとったほうがよかった。
- ・クルーともっとコミュニケーションをとり、ゲーム中に共有することや修正することを伝える方法をもっと学ばなければいけないと感じた。

女子決勝 東海大福岡対若葉

CC 福岡（長崎県）、U1 川島（宮崎県）、U2 山中

- ・アングルの取り方、プレーの見方を工夫する。←留学生に対するコンタクトや留学生が起こすアクションを見逃さない。
- ・マージナルの幅をもっと持たせても良かった。→影響までもっと見る必要があると感じた。
- ・プレーがアクティブになる時とそうではない時をもっと感じ取り、笛を入れるべきか否かを判断する。

《原田氏 報告》

6月18日（土）第4試合 大分高校対小林高校

CC:原田 U1:井元（熊本） U2:大城（沖縄）

【PGCの内容】

- ・プレー全体を分析した判定にチャレンジする
- ・そのために良い位置どりからRDし続ける
- ・スムーズなゲーム進行のためにリスタートを丁寧かつテンポ良く時間を節約し大事な場面に還元できるようにする
- ・クロックの管理
- ・SCR, OFのコンタクト, UF, TFの判定基準の確認
- ・チームの特徴について
- ・メカニクスの確認（チェックイン/アウト, Cサイドの高い位置のプレッシャーDF, コーナーのLTの役割分担など頻繁に起こりそうな場面について）

**【担当ゲームについて】**

PGCで確認したことが多くの場面で起こり、クルーでスムーズに試合を進めることができた。まずはプライマリが判定をしていく意識がそれぞれにあり判定する際に1番手2番手を理解した判定を積み上げることができていた。それぞれに判断に悩む場面もあったが、クリーンでタフなゲームにしていく方向性の判定基準をメッセージし続けた。

**【ゲーム後の振り返り】**

ゲーム後は映像で振り返りを行なった。

振り返りのテーマとしては「デリバリと誰が長く見ているか」を主な話題とした。

・デリバリが弱いとたとえ判定が正しくても判定に対して疑念をもたれてしまうような場面がいくつかあった。そのような場面ではコーチが見ている位置とレフェリーが判定している場所が異なっており、コーチには当然違う見え方であると考えられる。良い位置でPOCとネイチャーを把握した判定を積み上げていくこととそれを表現するスキルの大切さを感じた。

・クルーにはどのようにプレーが見えているかを意識しながらお互いレフェリングすることにトライできた。自分が見えないものはクルーがよく見えているという信頼のもと番手を意識した判定が多かった。課題点としては、ローテーションの最中に誰が長くプレーを捕まえているかを意識した判定の精度の場面であった。映像で振り返るとLがローテーションを完了するかしないかというタイミングで目の前のプレーを判定してしまうことがあり、オリジナルCがより長く見ているという意識から慌てずに一旦Cに預けてもよい場面があった。

上記の課題点を改善していくことで3人でより良いゲーム運営ができると感じた。

6月19日(日) 第4試合 福岡第一高校対福岡大学付属大濠高校

CC:松本(佐賀) U1:原田 U2:小川(宮崎)

**【PGCの内容】**

- ・ミッドレーンで起こりやすいプレーについて、それぞれのポジションからどのように判定に参加すべきかの確認
- ・プレー全体を分析した判定へのチャレンジ
- ・クルーでのコミュニケーションのあり方について
- ・怪我につながるプレーに対して判定していく
- ・UF, TF, SCR, GTBIの判定基準についての確認
- ・両チームのスカウティング

**【担当ゲームについて】**

両チームの前回の対戦の映像からスカウティングを行い、クルーで共有して臨んだ。怪我をして出場していない選手等もいたが、両チームともに特徴的

	<p>なプレーが多く慌てることなくプレーに準備することを多く積み重ねることができた。その中でイリーガルかマージナルかという判断はとても難しかった。</p> <p>PGCでもクルーのコミュニケーションのあり方をテーマにしてチャレンジしたが、そのような場面は難しいケースが起こった時であり、選手やベンチのコントロールも同時に行わなければならない、判断の精度が落ちていたり、自分が見て確認したものへの自信の揺らぎがあったりした。そこが自分の弱さだと痛感した。</p> <p>一方で手応えをつかめた場面もあった。昨シーズンにはUFの決断に自信のない自分がいたが、どんな情報収集ができていないから自信をもてなかったのかの分析を繰り返したことで、見るべきところに視点がいくようになった。スティー爾からC4のUFの場面では、OFとDFの関係、クリアパスかどうかの情報収集が以前よりもできている実感があり、慌てることなく判定につなげることができたのは収穫であった。</p> <p>ゲーム後の振り返り</p> <p>自宅に戻りそれぞれ映像をチェックして各自で振り返りを行い、共有すべきケースについて話題にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIのケースについて</li> <li>・TFにつながった時間帯の見極めについて</li> <li>・UFの検証</li> </ul>
6 所感	<p>2年振りの九州大会開催ということで、コロナ対策含めた準備等含め、大会開催にあたってご尽力いただいた宮崎県の方々にまずは感謝したいです。九州各県の審判が久しぶりに集まり、お互いのゲームを観たり、一緒に審判をしたり、ゲーム後の振り返りに参加したりと、以前まで当たり前にやっていたことではありますが、それができたことがとても貴重な機会となりました。来年度の鹿児島国体を皮切りに、九州各県でビッグイベントが開催されるので、県内はもちろん九州各県で互いに協力し合ってレベルアップを図り、大会開催に備えたいです。</p> <p>今回の派遣にあたりご配慮いただいた鹿児島県バスケットボール協会に感謝いたします。ありがとうございました。</p>